

SDGsの位置づけ



目指すべき方向性：子どもから高齢者まで【全世代】が利用しやすい公園の整備



目指すべき方向性：持続可能な公園運営
▶市民参加型の公園管理の推進
▶企業など新たなパートナーシップの構築 等

事業を進める上での課題・求めるアドバイス

- ▽未利用部を活用した既存公園施設の質の向上が必要▶公園の質の向上について
- ▽愛着心の醸成・魅力向上のため、より一層の民間活力の活用が必要▶効果的なパートナーシップの構築
- ▶具体的な公園の設置場所について

各評価者による具体的な対応策・提案

▶公園の設置をする場合、なぜ、どんな目的でその公園を作るのか、なぜその位置に木を植えるのか、等、ランドデザインの段階からプロの視点を入れ込みたい。それにより地形や日当たりなど周辺環境を踏まえた公園デザインがなされ、植物についても、適切な配置が可能となる。また、公園は作ったら終わりではなく、景観と安全性に配慮した定期的なプロによる維持管理がなされることにより、公園の価値と魅力を高め、人々が利用したくなる気持ちの良い公園となるのではないかと考える。

・未利用部については、森林を切り開くことなく、それを活かして公園を設計する場合、樂山公園などは、まちと森が近接しており、森を中心に『健康（スポーツ）』と『文化』のテーマ等による、人々の心身の健康の増進や、市内外の人々の憩いの場として開発できる可能性があるかと考える。

▶都留市と同様に「子どもを遊ばせる公園がない」という問題をかかえる、同規模の自治体を対象とした調査を実施したことがあり、その結果を照会させていただきたい。①トイレ、水道、あずまやといった施設の清潔さや管理が行き届いていることが、親子の利用につながる要素（特に母親側）である。②利用の前段階として、公園の場所・存在が知られておらず、周知が不十分。③遊び方を教えることが重要かつ有効（高齢者の活躍、生涯学習活動との連携、指導者の育成等）などの結果が見られた。こうした観点からも、都留市総合運動公園は「生涯活躍のまち・つる事業」で開発される箇所と隣接しており、一体的な開発が可能であり、大学も近隣にあるなど、多世代の交流なども期待出来るのではないかと考える。

コーディネーターによる意見のまとめ

▼子育て世帯に使いやすい公園が中々ないとの声が市民から多く寄せられている。

▼市の地形的な制約から、低未利用地を利用せざるを得ない状況だが、市内に森林空間をまさに活用しようとしている団体もあり、連携なども深めるなかで、市民ニーズを把握して、公園の開発を実施されたい。